

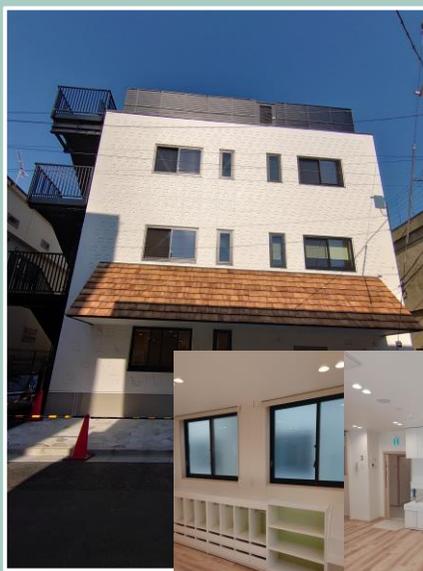


株式会社シー・エス・ランバー

東京証券取引所スタンダード
証券コード 7808

2022年5月期決算説明会

2022年7月27日開催



※写真はいずれも2022年に開所した当社賃貸保育所

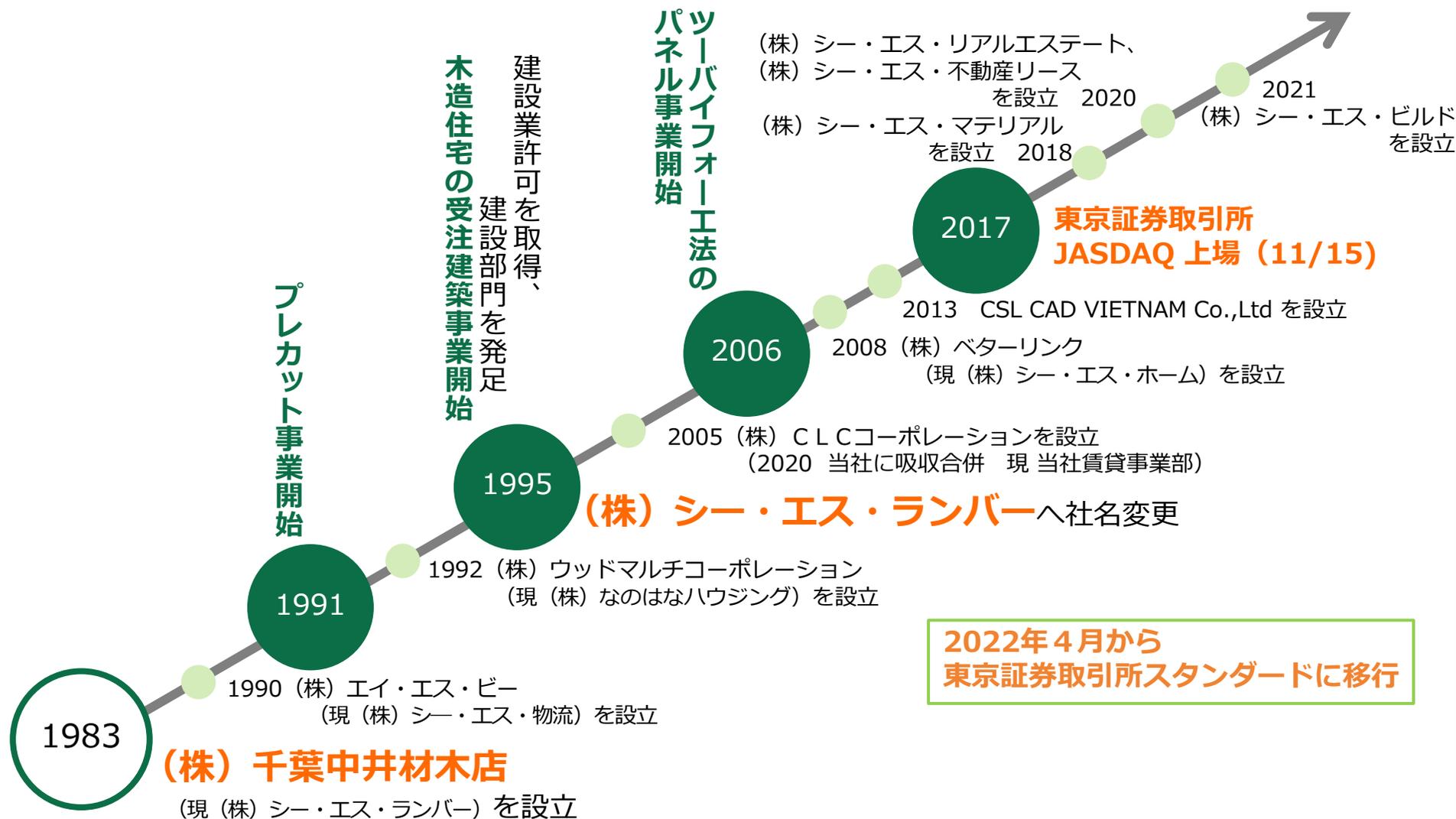
1. 当社の概要
2. 2022年5月期決算概要
3. 中期経営計画2025
4. 2023年5月期業績予想
5. 参考資料

Customer Satisfaction through Lumber 木材を通じて顧客に満足戴ける取引に徹する

会社名	株式会社シー・エス・ランバー	 <p>幕張本郷 本社</p>
本社所在地	千葉県千葉市花見川区幕張本郷一丁目16番3号	
代表者	代表取締役社長 中井 千代助	
設立	1983年4月1日	
資本金	532百万円	
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. プレカット事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 在来軸組工法における設計、木材のプレカット加工及び販売 ● ツーバイフォー工法における設計、木材のプレカット加工、パネルの製造及び販売 2. 建築請負事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 木造住宅・大型木造施設の建築請負 3. 不動産賃貸事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 不動産賃貸・管理 4. その他事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 不動産の販売 	
従業員数	連結 315名 他に臨時従業員 104名	

(2022年5月末現在)

木材を熟知する材木店から、木造建築のトータルサービス企業へ



2022年4月から
東京証券取引所スタンダードに移行

1. 当社の概要
2. 2022年5月期決算概要
3. 中期経営計画2025
4. 2023年5月期業績予想
5. 参考資料

2022年5月期決算概要



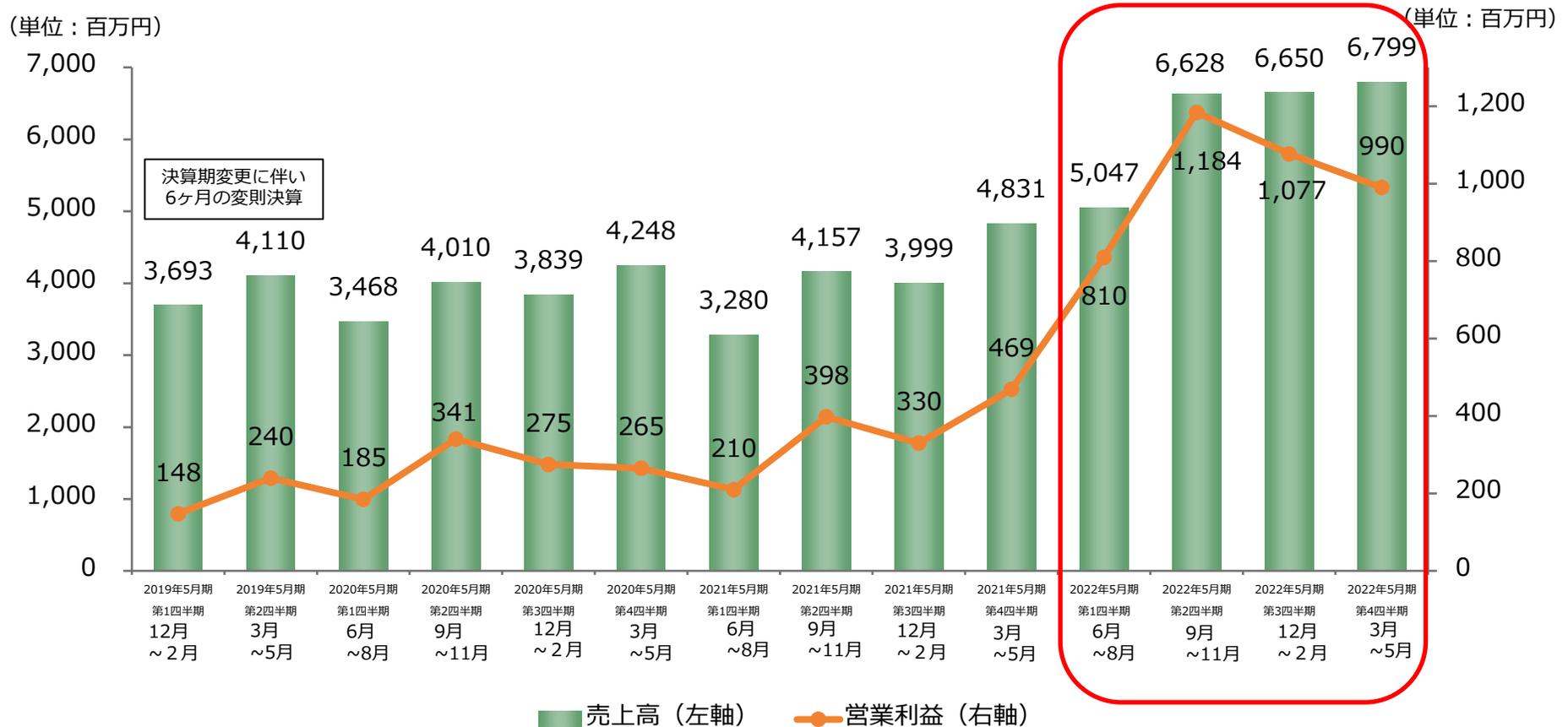
2022年5月期はウッドショック一色、その中でプレカットを中心に売上高も利益も大幅に増加

単位：百万円	2021年5月期		2022年5月期			
	実績		実績		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	16,269	100.0%	25,126	100.0%	8,856	54.4%
プレカット	12,717	78.2%	21,406	85.2%	8,689	68.3%
建築請負	3,746	23.0%	4,066	16.2%	319	8.5%
不動産賃貸	624	3.8%	718	2.9%	93	15.0%
その他	381	2.3%	480	1.9%	99	26.0%
粗利益	3,650	22.4%	6,457	25.7%	2,807	76.9%
プレカット	2,748	16.9%	5,454	21.7%	2,706	98.5%
建築請負	382	2.4%	394	1.6%	12	3.2%
不動産賃貸	476	2.9%	561	2.2%	85	17.9%
その他	42	0.3%	52	0.2%	9	23.3%
販売費及び一般管理費	2,241	13.8%	2,394	9.5%	153	6.9%
営業利益（セグメント利益）	1,408	8.7%	4,062	16.2%	2,653	188.4%
プレカット	798	4.9%	3,349	13.3%	2,550	319.3%
建築請負	85	0.5%	97	0.4%	12	14.2%
不動産賃貸	459	2.8%	556	2.2%	97	21.2%
その他	12	0.1%	13	0.1%	0	5.4%
経常利益	1,343	8.3%	4,029	16.0%	2,685	199.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	890	5.5%	2,766	11.0%	1,876	210.6%

2022年5月期 四半期業績推移



住宅新設需要の回復と前例のない木材不足が同時発生。樹種を工夫してできる限り対応



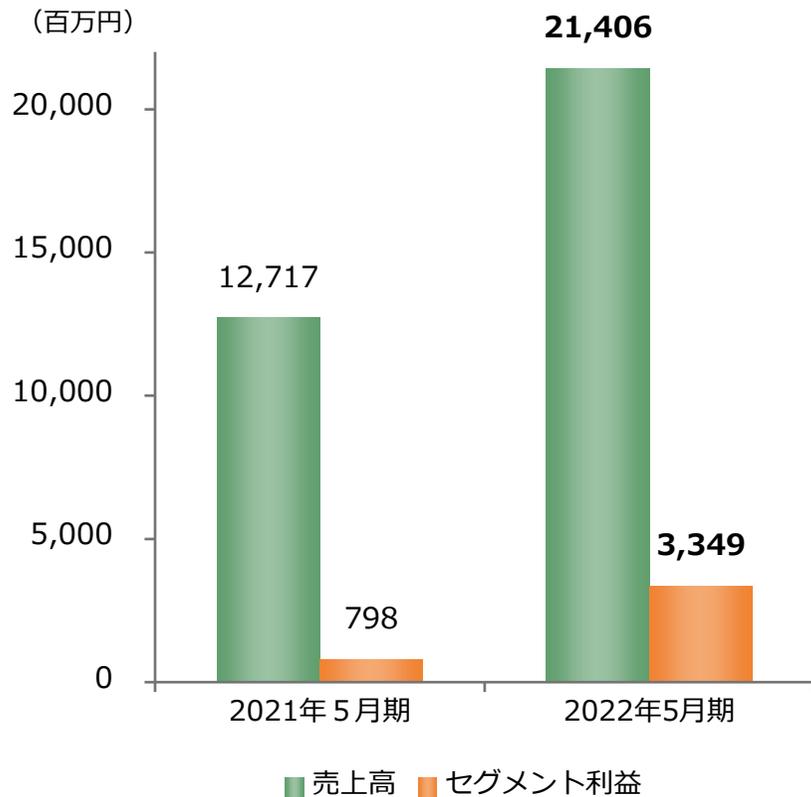
- ・コロナ禍にありながら住宅新設需要は回復。
- ・当社は「受注制限をしない」という会社方針を出し、既存先のみならず、プレカットを購入できずに困っている新規先にも協力。
- ・ロシア・ウクライナ戦争により木材不足の状態は更に悪化するが、大きな住宅新設需要に対してできる限り対応。

2022年5月期 プレカット事業（前期比）



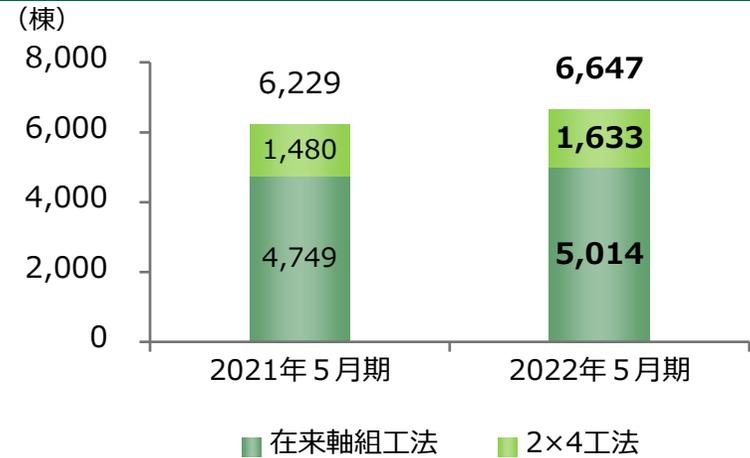
需要の回復に伴い既存先・新規先ともに受注を増やし、出荷棟数・坪数を増やす

売上高・セグメント利益

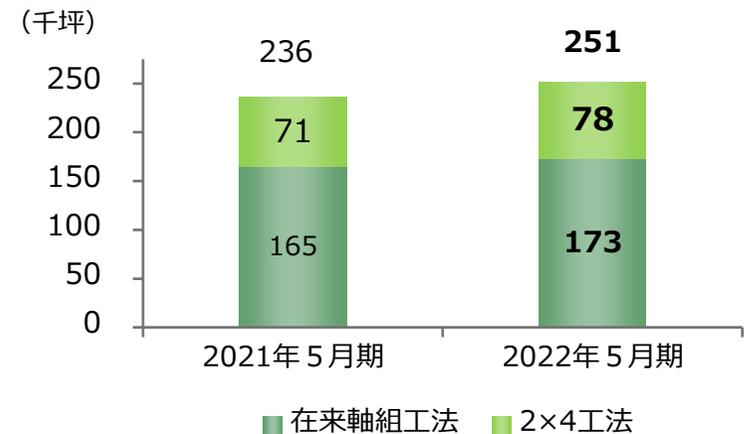


原材料費に一定の率のマージンを乗せて販売。売上高は大きく伸びたが、固定費が占める部分も大きく、結果利益も増加

出荷棟数



出荷坪数

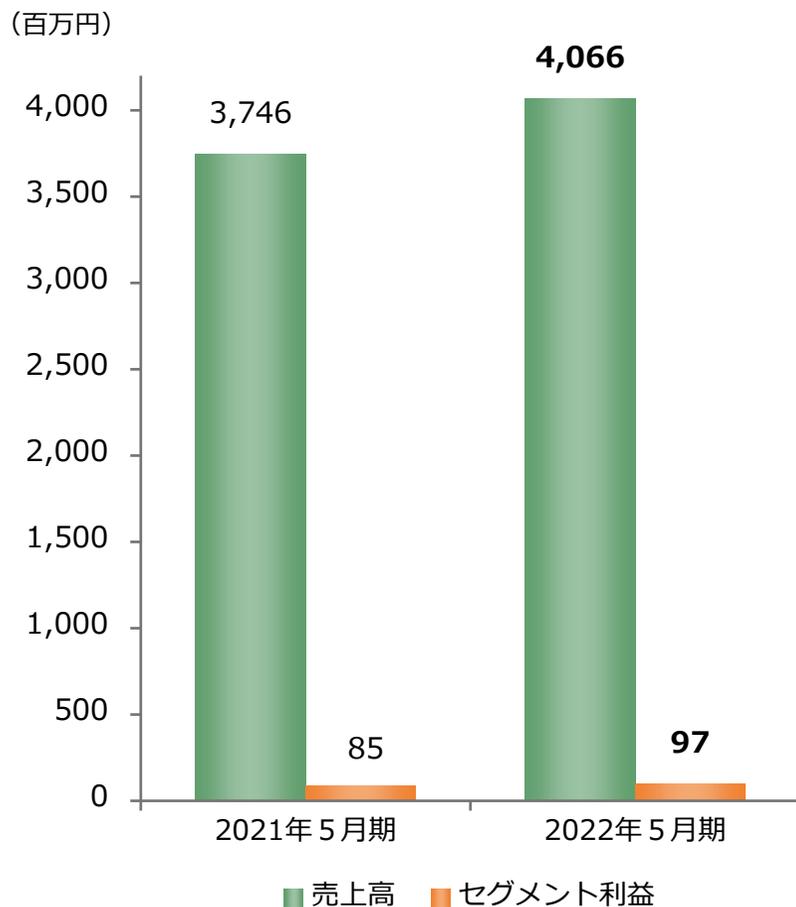


2022年5月期 建築請負事業（前期比）



前半は建築件数が増えたが、後半は建築費用の上昇から様子見や工期を遅らせる動きも出始める

売上高・セグメント利益

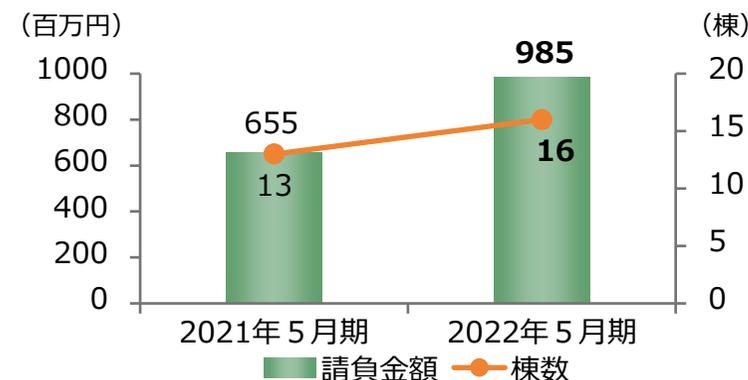


受注・完工・受注残



2022年5月期から工事進行基準を適用

大型(50坪以上)木造住宅・施設



2021年5月期は請負金額完成ベース、完工棟数
2022年5月期は請負金額進行ベース、着工棟数

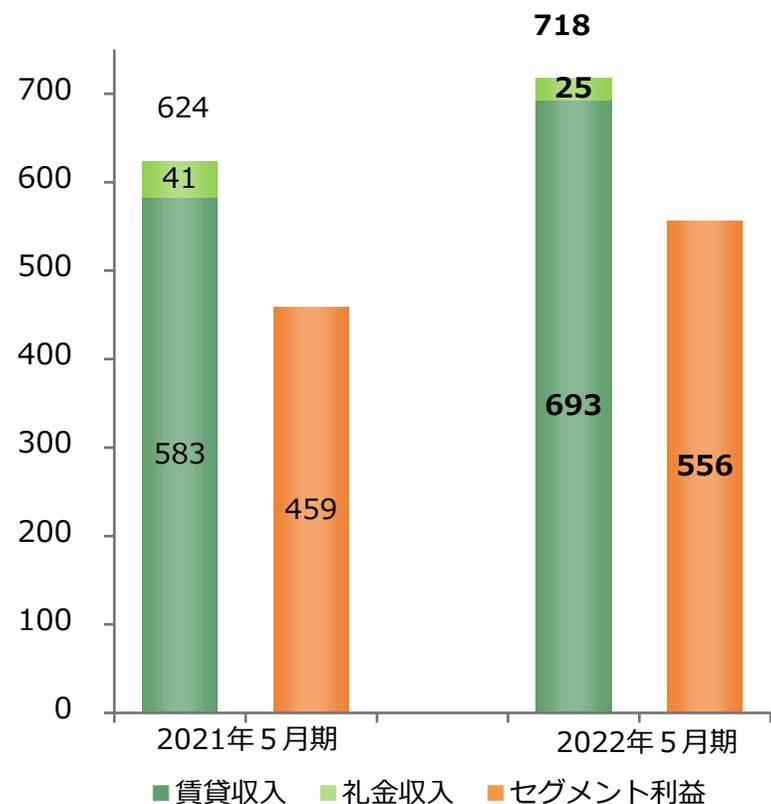
2022年5月期 不動産賃貸事業（前期比）



保育所は2022年4月に新たに3棟開所、駅近や住宅街など住環境の良い場所で共同住宅など2棟を購入

売上高・セグメント利益

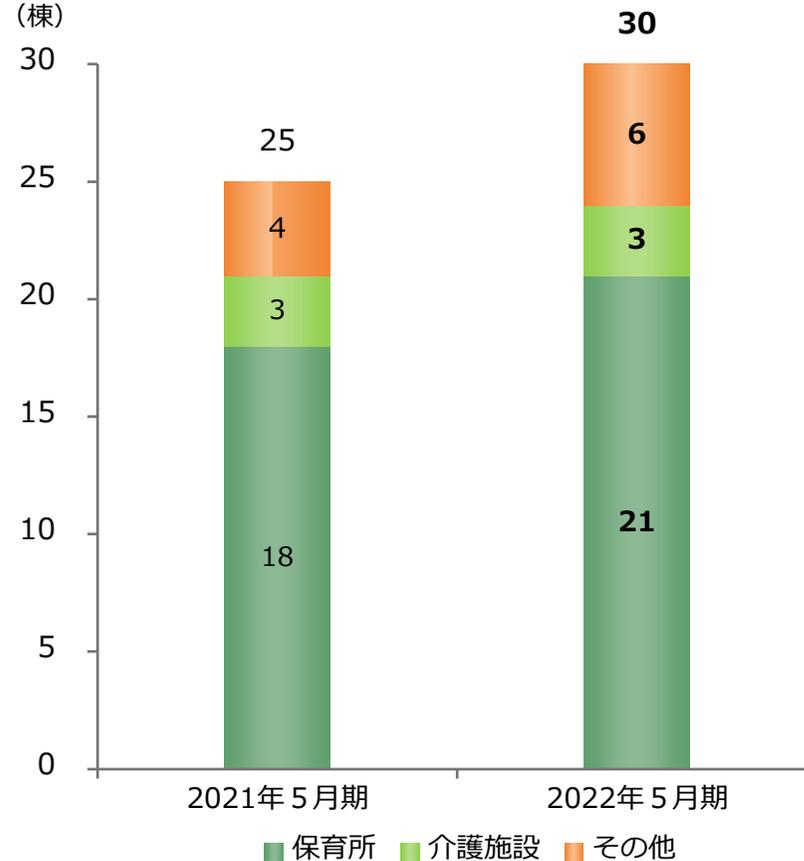
(百万円)



賃貸収入・礼金収入の推移は、40ページもご参照

賃貸及び管理棟数

(棟)



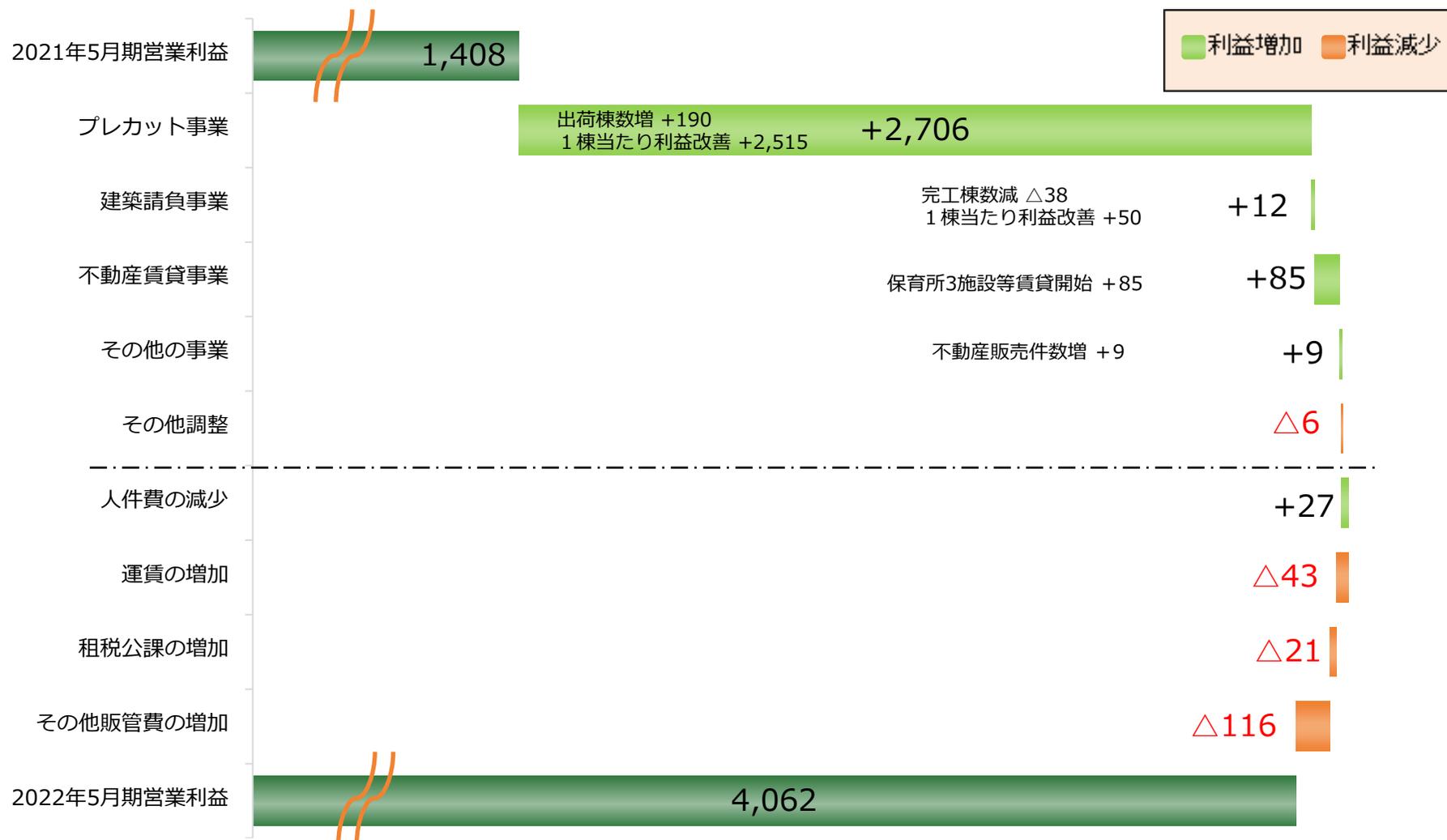
その他物件はシー・エス・不動産リース2棟追加

2022年5月期 営業利益の増減（前期比）



営業利益増加の主要因は、プレカット事業の1棟当たり利益改善。販売価格への転嫁を進めた

(単位：百万円)



2022年5月期 貸借対照表



単位：百万円	2021年5月期		2022年5月期			
	実績		実績		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
流動資産	6,614	41.1%	11,156	53.0%	4,542	68.7%
現金及び預金	2,428	15.1%	4,921	23.4%	2,492	102.6%
受取手形、売掛金及び契約資産	2,786	17.3%	4,210	20.0%	1,423	51.1%
販売用不動産	498	3.1%	797	3.8%	299	60.0%
仕掛品	344	2.1%	397	1.9%	52	15.2%
原材料及び貯蔵品	378	2.4%	619	2.9%	241	63.7%
その他	177	1.1%	209	1.0%	32	18.6%
固定資産	9,474	58.9%	9,875	47.0%	400	4.2%
有形固定資産	8,815	54.8%	9,277	44.1%	462	5.2%
無形固定資産	132	0.8%	110	0.5%	△ 22	△ 16.6%
投資その他の資産	526	3.3%	486	2.3%	△ 39	△ 7.5%
資産合計	16,089	100.0%	21,031	100.0%	4,942	30.7%
流動負債	6,097	37.9%	8,250	39.2%	2,152	35.3%
支払手形及び買掛金	3,048	18.9%	4,335	20.6%	1,287	42.2%
短期借入金	1,049	6.5%	600	2.9%	△ 448	△ 42.7%
1年以内返済予定の長期借入金	398	2.5%	862	4.1%	463	116.4%
リース債務	204	1.3%	173	0.8%	△ 31	△ 15.2%
未払金	380	2.4%	392	1.9%	11	3.0%
その他	1,015	6.3%	1,885	9.0%	869	85.6%
固定負債	5,794	36.0%	5,895	28.0%	101	1.8%
長期借入金	4,582	28.5%	4,949	23.5%	366	8.0%
リース債務	427	2.7%	266	1.3%	△ 160	△ 37.6%
その他	785	4.9%	680	3.2%	△ 104	△ 13.3%
負債合計	11,892	73.9%	14,146	67.3%	2,253	19.0%
株主資本合計	4,085	25.4%	6,784	32.3%	2,699	66.1%
純資産合計	4,196	26.1%	6,885	32.7%	2,688	64.1%
負債純資産合計	16,089	100.0%	21,031	100.0%	4,942	30.7%

売上債権、在庫、支払債務は大幅に増加しているが、売上高が増えたため。運転資金の回転期間（平均月商対比でみた売上債権＋在庫－支払債務）は前期0.78ヶ月、今期0.87ヶ月と殆ど変わらず

賃貸不動産は780百万円の増加

2022年5月期 キャッシュフロー



営業活動によるキャッシュフローが、投資活動・財務活動によるキャッシュフローを大幅に上回る

単位：百万円	2021年5月期	2022年5月期
営業活動によるキャッシュフロー	1,113	3,375
投資活動によるキャッシュフロー	△ 1,167	△ 826
財務活動によるキャッシュフロー	148	△ 40
現金及び現金同等物の増減額	95	2,512
現金及び現金同等物の期首残高	2,277	2,373
現金及び現金同等物の期末残高	2,373	4,885

単位：百万円	2021年5月期	2022年5月期
固定資産の取得による支出	1,160	888
減価償却費	412	407

1. 当社の概要
2. 2022年5月期決算概要
3. **中期経営計画2025**
4. 2023年5月期業績予想
5. 参考資料

単位：百万円

	当初計画	実績	達成率
売上	16,193	25,126	155.2%
営業利益	1,133	4,062	358.5%
純利益	676	2,766	409.2%

1年前倒しで計画を達成しておりました。ウッドショックの影響が不透明だったため、中期経営計画の最終年度は、業績見込みの公表が遅れましたが、ウッドショックによる材料不足に加えて、価格上昇の中、調達先への働きかけや代替材の提案を行い、お客様へ納品を滞らせることのないよう活動しました。また、適正利潤の確保と製材、配送の一部内製化の強みを活かした生産性向上と歩留りを追求した結果、売上および営業利益・純利益は過去最高の業績となりました。

プレカット	ログハウス加工の100%内製化、大型木造建築加工を推進中 ウッドショックの中、新規開拓に注力し取引拡大を推進
建築請負	保育所建築、アパート建築の非住宅大型案件のノウハウ蓄積 リフォーム工事についての体制は構築途上
不動産賃貸	保育所21か所、福祉施設3か所、アパート等6か所を賃貸中 安定した賃料収入を確保
その他	不動産販売／土地を確保し、順次販売中

ウィズコロナ・アフターコロナ
住宅市況の変化
住設機器の不足
価値観・ニーズの多様化、分散化

木材流通の不確実性
米・中の住宅需要の影響
自然災害の甚大化
ロシア・ウクライナ情勢、および
各国の経済制裁の影響

GDP成長率低迷
円安進行
海外での購買力低下

脱炭素などの社会の持続可能性や企業の
社会的責任に対する意識の高まり

改正木材利用促進法による大型施設への
木材利用の拡大

人口減少
少子高齢化
就業者数の減少
女性就業意欲の高まり

住宅市場予測
住宅着工戸数の減少
大工職人の減少・高齢化

社是・経営理念

Customer Satisfaction through Lumber 木材を通じて顧客に満足戴ける取引に徹する

- 一、我社は、木造住宅資材の販売流通を通して社会に貢献する。
- 二、我社は、顧客満足と会社の繁栄、社員の幸福を一致させる。
- 三、我社は、数値に基づく行動と現場主義の徹底を行動原理とする。

目指す将来像

創業50周年(2032年)を迎えるシー・エス・ランバーグループの目指す将来像

中期経営計画
2025

- ▶ 過去最高益にある現在の業績の維持を図るため、目指す将来像へ向けて、各事業の収益基盤を強化する。
- ▶ 借入金返済を推進し、財務基盤を強化する。

高品質なプレカット製品の提供を
通じた顧客満足の追求



安定的な収益源を創り
ながら創意工夫を通じて進化



中期経営計画2022で
高めたプレカットの
マネジメント力を他事業に展開



プレカット事業を基盤としつつも、
プレカット事業の枠にとらわれる
ことなく創意工夫で多様な収益源
を創りながら、事業の拡大、成長
を続ける企業集団を目指す。

基盤となるプレカット事業では、

- ▶ 1工場の取得、物流の合理化による収益力をアップ
- ▶ 工場の無人化に挑戦

	2025年5月期	2032年5月期	
売上	290億円	350億円	安定的な利益水準の維持 投資余力の増強 企業価値の向上
経常利益	35億円	42億円 以上	
経常利益率	12.0%	12.0% 以上	
純利益	24億円	28億円	

着工戸数が減少していく見込の中、木材価格の低下、競合との競争が激しくなることが予想されます。その中で、増収と安定的な利益確保を進め、経常利益率 12%以上、自己資本利益率 10%以上の利益率を維持できる企業を目指します。

財務体質の改善 2032年

既存保育所の借入金を7年以内に返済。
 投資の継続、借入金の返済を推進。

有利子負債 25億円未満

将来像

グループシナジーの最大化
収益賃貸物件の確保
多様な収益源確保に向けた工夫

木造建築の推進
住宅建築の拡大
大型木造施設分野でのステップアップ

経営安定化に向けた賃貸事業の維持・拡大

プレカットの拡大・深化

- ・顧客基盤の強化、安定出荷
- ・徹底的な歩留り追求
- ・無人化機械の研究
- ・生産管理システム導入
- ・大工職人・ドライバーの育成
- ・工場の拡大、分散

現状

顧客基盤の強化と安定した棟数の出荷

従業員の確保・育成等による生産力の向上

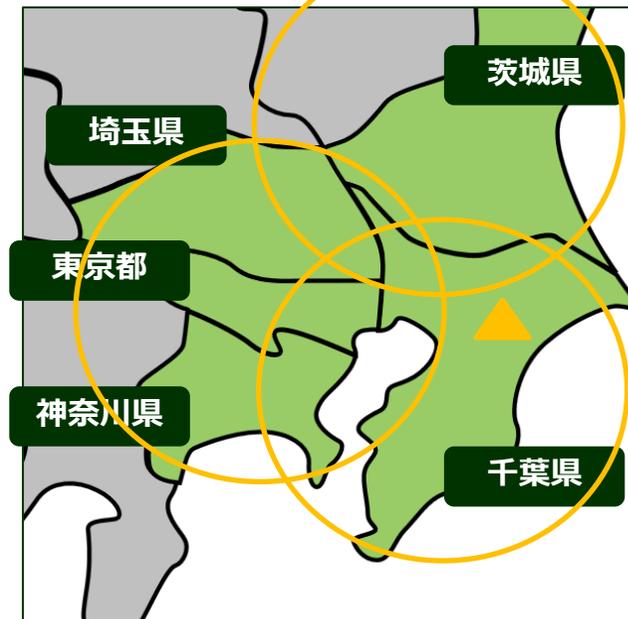
商圏内での工場用地選定（M & A 含む）

生産管理システム導入による情報共有の円滑化

ドライバー育成を通じた現場戦力化

大工職人の育成による取引先支援

商圏の近隣で製造・加工し、効率配送



基盤

供給を絶やさない調達力の維持

木材調達価格に沿った適正利潤の確保

徹底的な歩留り追求

2022年5月期

2025年5月期

プレカット棟数

6,647棟

7,200棟

プレカット坪数

251千坪

277千坪

トラック保有台数

21台

23台

建て方棟数

615棟

1,000棟

2022年5月期

2025年5月期

建築完工

182物件

250物件

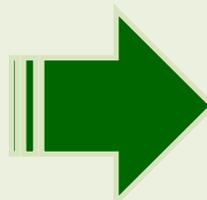
非住宅物件

15物件

25物件

戦略

営業体制再構築



取引先への提案力強化による受注拡大
不動産会社、工務店へ新規取引強化、紹介ルート確保

▶ 建築請負件数の拡大

入札案件への積極的参加

▶ 非住宅請負件数の拡大

2022年5月期

2025年5月期

保育所賃貸数

21物件

25物件

福祉施設賃貸数

3物件

9物件

アパート等賃貸数

6物件

15物件

戦略

保育所賃貸事業へのさらなる投資（重点エリア 東京都心部）

安定的な中長期的収益基盤の強化

将来の分譲化に向けた収益物件の拡大

不動産販売事業

2022年5月期

2025年5月期

累計保有区画数

26区画

90区画（3年間累計）

販売区画数

18区画

80区画（3年間累計）

戦略

分譲販売ノウハウの蓄積

仲介企業との連携強化

将来に向けた分譲住宅用地の安定的な確保



新規事業

2022年5月期

2025年5月期

建材販売

—

11億円

人材戦略

将来に向けた経営幹部の育成、経営陣の再編成

人材の育成・確保

社員の知識向上・スキルアップ

女性社員の活躍促進に向けた環境整備

グループ組織戦略

グループ最適意識の向上

リスク管理体制の強化

グループ企業間の連携強化

不動産取得

56億円

- 販売不動産・賃貸物件・工場用地の取得
- ・見極め力を活かした取得
- ・効率配送を考えた選定（M & Aも視野）

人材育成・採用

7億円

- ・次世代経営幹部の育成
- ・ドライバー確保・育成
- ・大工職人確保・育成

IT・DX推進

5億円

- ・配送準備効率
- ・歩留りの追求、管理
- ・属人的業務の排除、部署間、事業所間連携

基本方針

2022年5月期は、ウッドショックの影響により当社の実力以上の追い風が吹き、過去最高の業績となりました。しかしながら今後は、ウッドショックの反動がどのように表れてくるか危惧しています。また、木材以外の建築資材費の高騰もあり、消費者の建築・購入マインドの低下が懸念されます。

中長期的には、人口減による世帯数の減少が見込まれることから住宅需要の減少が予測されます。そのため、経営の安定化、借入金の返済、将来事業への投資を経営方針に掲げ、その財源として剰余金を活用してまいりたく考えております。今後ウッドショック等の影響以外で継続的な業績が見込まれる段階で配当性向20%をめざしてまいります。

▶2022年5月期（40期）

1株当たり 80円

（創業40周年記念配当20円を含む）

連結配当性向 5.3%

※ 2022年5月期のウッドショックの影響は、

連結売上高ベース：28%

連結経常利益ベース：57%

と試算しております。



1. 当社の概要
2. 2022年5月期決算概要
3. 中期経営計画2025
4. 2023年5月期業績予想
5. 参考資料

2023年5月期 業績予想



木材価格はこれ以上は上昇しない段階でありプレカットの販売価格に下げ圧力。利益は減少方向

単位：百万円	2022年5月期 実績		2023年5月期 予想		
	金額	構成比	金額	構成比	増減率
売上高	25,126	100.0%	26,000	100.0%	3.5%
プレカット	21,406	85.2%	20,418	78.5%	△4.6%
建築請負	4,066	16.2%	4,230	16.3%	4.0%
不動産賃貸	718	2.9%	805	3.1%	12.2%
その他	480	1.9%	913	3.5%	90.1%
粗利益	6,457	25.7%	5,673	21.8%	△12.1%
プレカット	5,454	21.7%	4,701	18.1%	△13.8%
建築請負	394	1.6%	410	1.6%	3.9%
不動産賃貸	561	2.2%	594	2.3%	5.8%
その他	52	0.2%	57	0.2%	9.1%
営業利益（セグメント利益）	4,062	16.2%	3,100	11.9%	△23.7%
プレカット	3,349	13.3%	2,444	9.4%	△27.0%
建築請負	97	0.4%	127	0.5%	30.2%
不動産賃貸	556	2.2%	543	2.1%	△2.2%
その他	13	0.1%	36	0.1%	176.4%
経常利益	4,029	16.0%	3,000	11.5%	△25.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,766	11.0%	2,000	7.7%	△27.7%

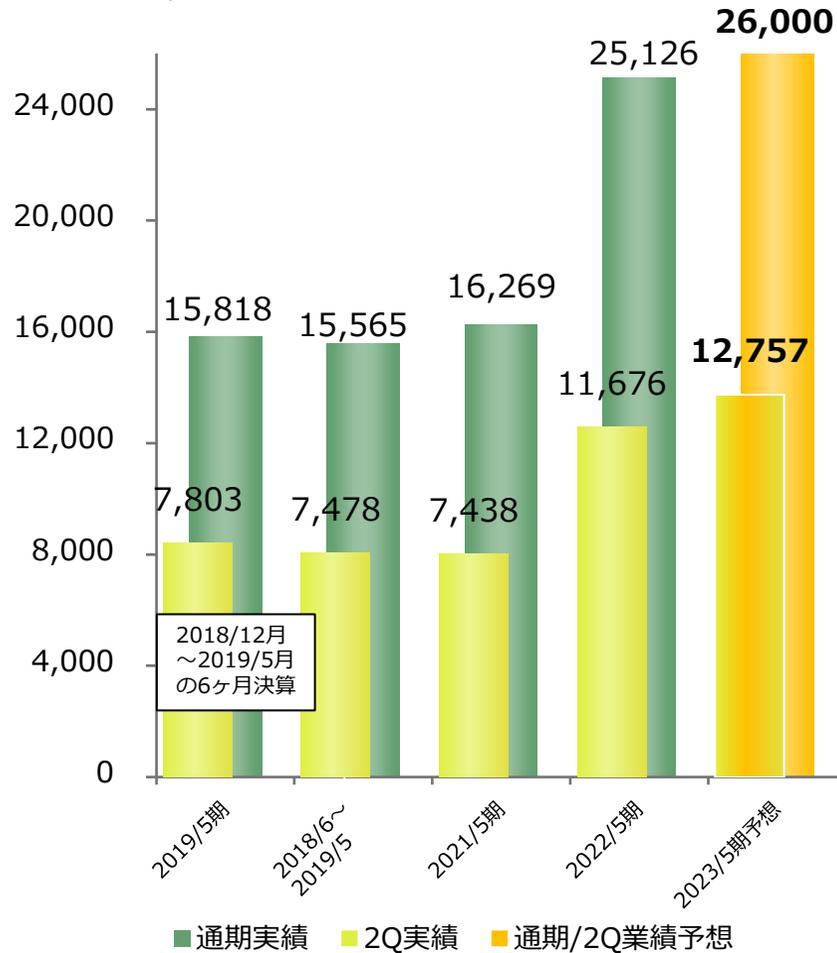
2023年5月期 業績予想



2023年5月期は、売上高は前期比3.5%の増加、営業利益は同23.7%の減少と予想

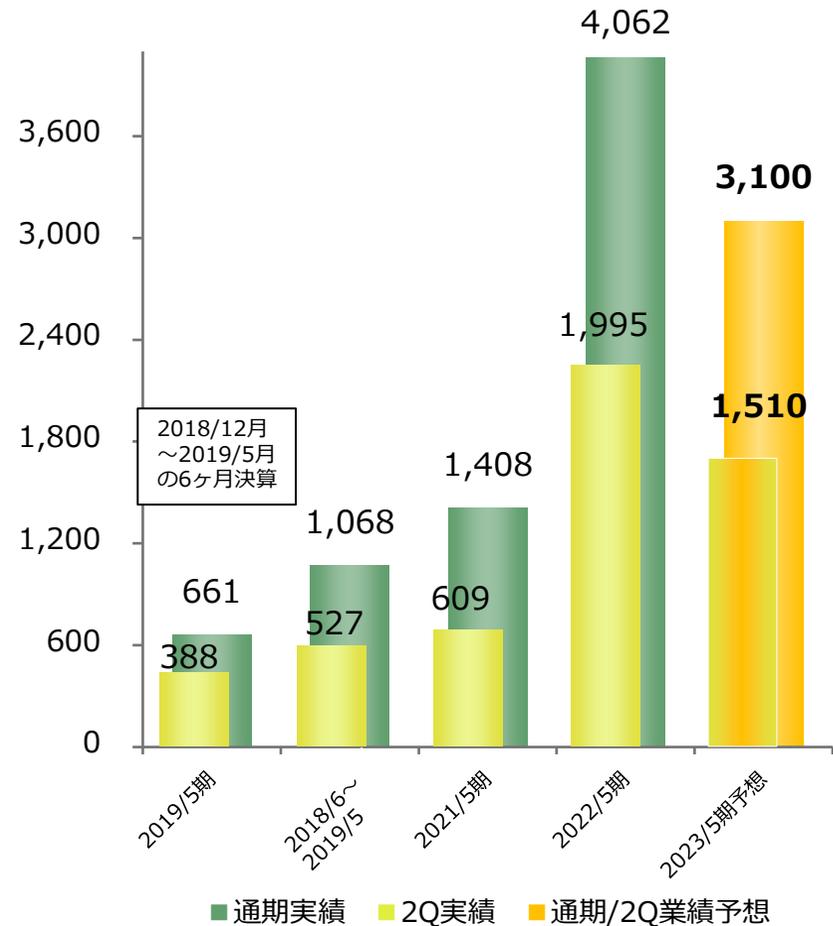
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



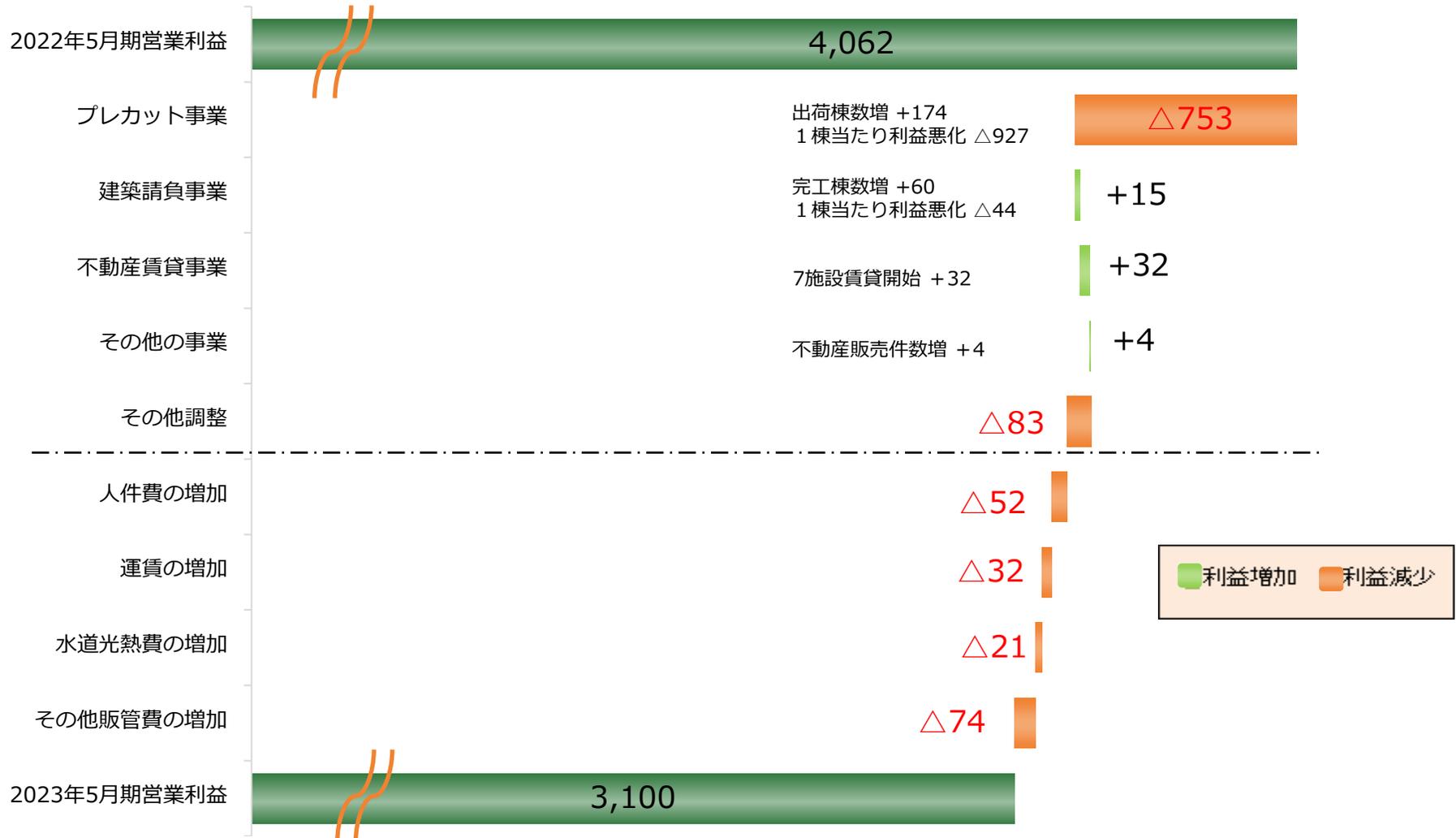
※2019年5月期は、特殊要因（消費税増税駆込み需要効果）を除く値で読み替えを実施

2023年5月期業績予想 営業利益の増減（前期比）



営業利益減少の主要因は、プレカット事業の1棟当たり利益悪化。販売価格への下押し圧力強まる

(単位：百万円)



2023年5月期の配当は80円を予想

配当政策の基本方針

将来の事業展開と経営体質強化
に必要な内部留保の強化

継続性・安定性

経営成績に応じた
配当の実施

< 内部留保強化の必要性 >

安定した経営基盤の確立、持続的成長、長期的な企業価値向上

(施策) ・財務基盤強化のための借入金の返済

・プレカット製品の安定供給を可能にするための将来の投資

配当金額

2021年5月期 1株当たり年間配当金(実績) : 50円(期末50円)

2022年5月期 1株当たり年間配当金(実績) : 80円(期末80円)(うち20円は創業40周年記念配当)

2023年5月期 1株当たり年間配当金(予想) : 80円(期末80円)

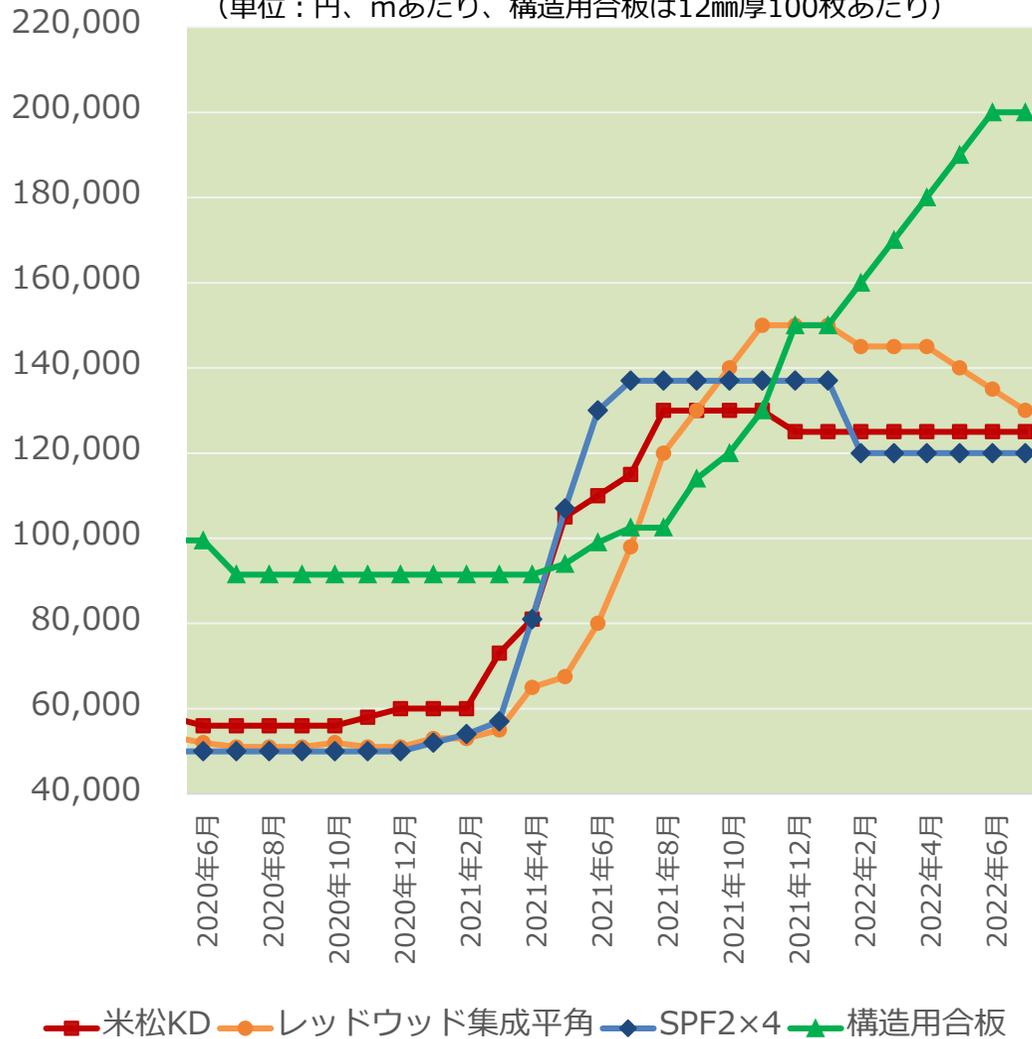
1. 当社の概要
2. 2022年5月期決算概要
3. 中期経営計画2025
4. 2023年5月期業績予想
5. **参考資料**

国内の木材価格動向と当社プレカットの販売価格（1棟あたり平均）



国内の木材価格動向

(単位：円、㎡あたり、構造用合板は12mm厚100枚あたり)



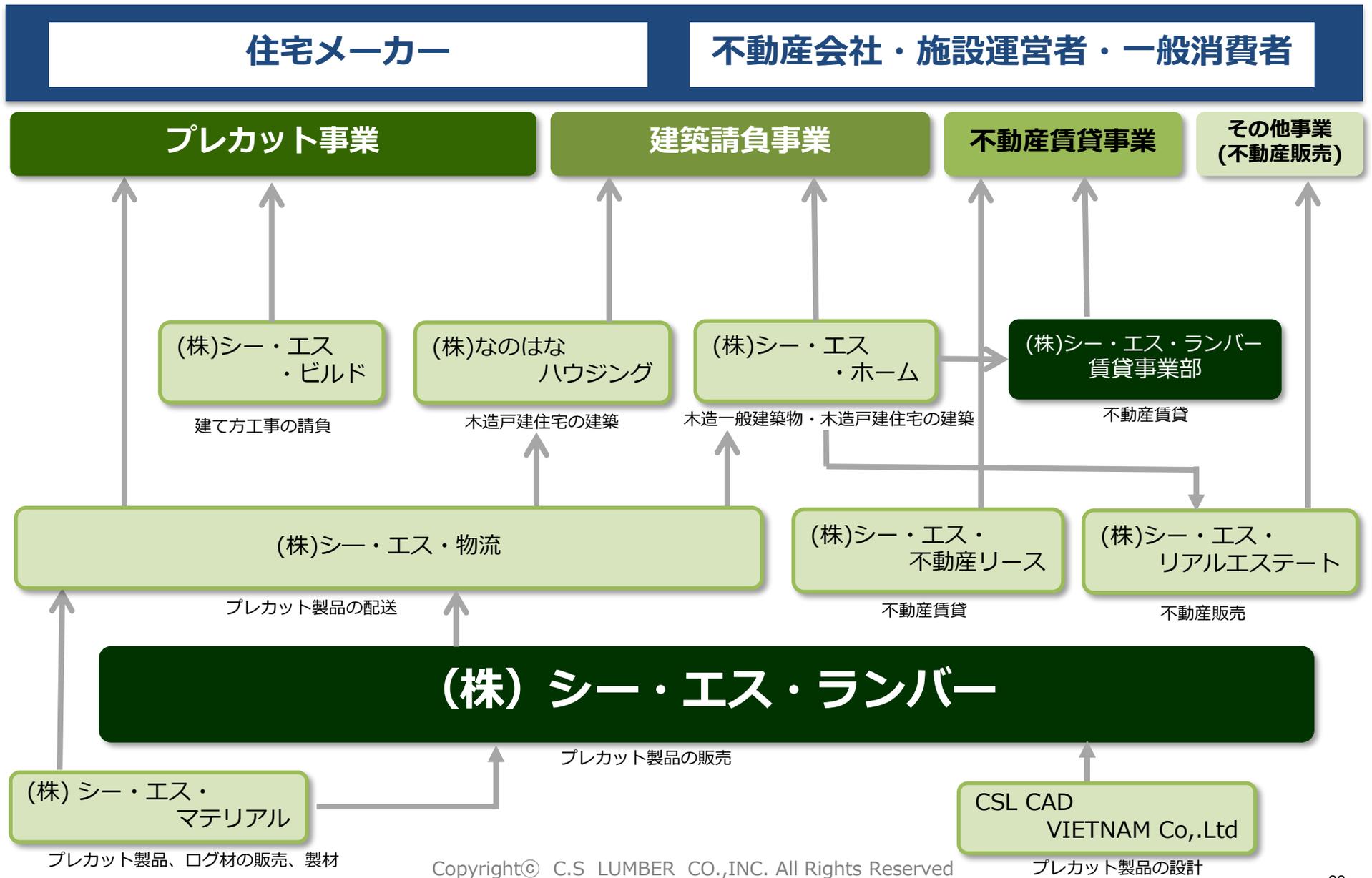
出所：日刊木材新聞

当社プレカットの販売価格（1棟あたり平均）

(単位：千円、棟あたり)



出所：当社決算短信



事業概要 (1) プレカット事業①



在来軸組工法における設計 (CAD)、木材のプレカット加工及び販売
ツーバイフォー工法における設計、木材のプレカット加工、パネルの製造及び販売

「木造建築の主要2工法に対応」した加工・販売

在来軸組工法 (山武工場)

日本で最も主流の工法
基礎の上に木の土台を据えて、柱と柱を梁で水平につぎ、
対角線を筋交いで補触する

ISO9001 : 2015認定
登録証番号 : JQA-QM8720
登録活動範囲 :
木造住宅用プレカット材の
設計、製造



(財)日本住宅・木材技術センター認定

優良木質建材等認証
CSL高耐久性機械ブ
レカット部材 (2種-
ACQ)



認定番号 AQ-099-A1-1



ツーバイフォー工法 (東金工場)

枠状に組まれたツーバイ材に構造用合板を打ち付けた壁や
床 (面材) で支える「枠組み」構造
隙間が大変少なく、気密性・防音性に優れている

JAS認定工場 (全国木材検査・研究協会)

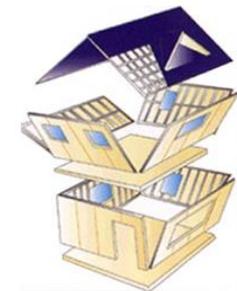
認定番号 : JLIRA-A-016

認定品目 :

枠組壁工法構造用製材

認定区分 :

人工乾燥枠組壁工法構造用製材



北欧などからの製品輸入が中心のログハウスプレカット事業に参入 (2019年)



カントリーテイストのある木造家屋が都市部住宅街にも建ち始めている傾向を捉え、ログハウスメーカーとタイアップしてプレカットを開始
在来軸組工法、ツーバイフォー工法の技術も必要とされており、親和性大

プレカット事業を軸に、建築請負事業も展開している

ATAハイブリッドトラス構法のプレカット事業に参入 (2020年)

「無柱大空間を可能にした非住宅・中大規模木造トラス構法」を生んだ株式会社ATA (アタ社) 様の提携プレカット工場となる

商業・工場・スポーツ施設など建物用途は多岐多様、鉄骨から木造への脱炭素の動き



木造戸建住宅・木造一般建築物の建築（大型木造施設等）の建築請負

当社のプレカット製品を仕入れて、
木造住宅・保育所等の大型木造施設を合わせ
年間約200棟以上施工



茂原市介護施設

- ・構造：木造2階建
- ・延床：996.26㎡
- ・居室数：23室



なのはなモデルハウスA棟

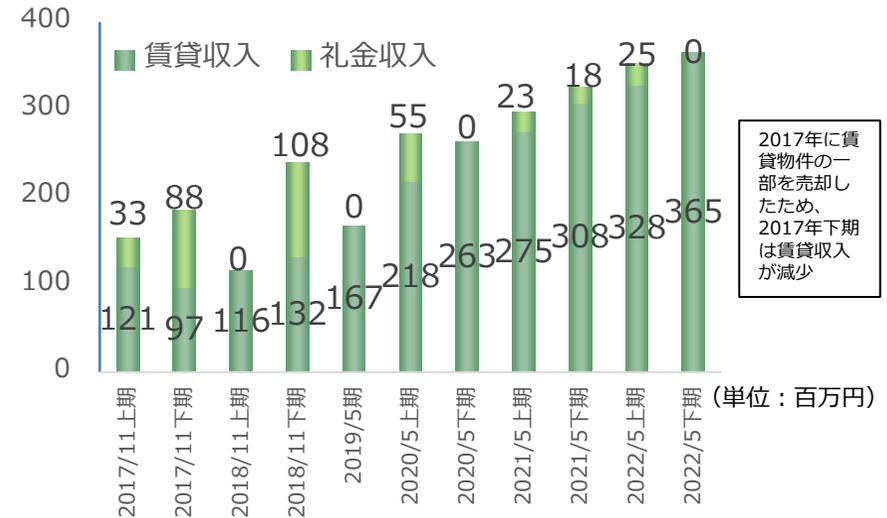
長期安定契約を基本方針とした不動産賃貸及び管理



保育所 (中野区)

- ・ 構造：木造 2 階建
- ・ 土地：483.41㎡
- ・ 延床：357.74㎡
- ・ 定員数：63名
- ・ 契約期間：2020.1.1
~2040.3.31

賃貸収入・礼金収入の推移



保育所 (文京区)

- ・ 構造：鉄骨造 3 階建
- ・ 土地：254.18㎡
- ・ 延床：378.00㎡
- ・ 定員数：59名
- ・ 契約期間：2019.11.1
~2040.3.31

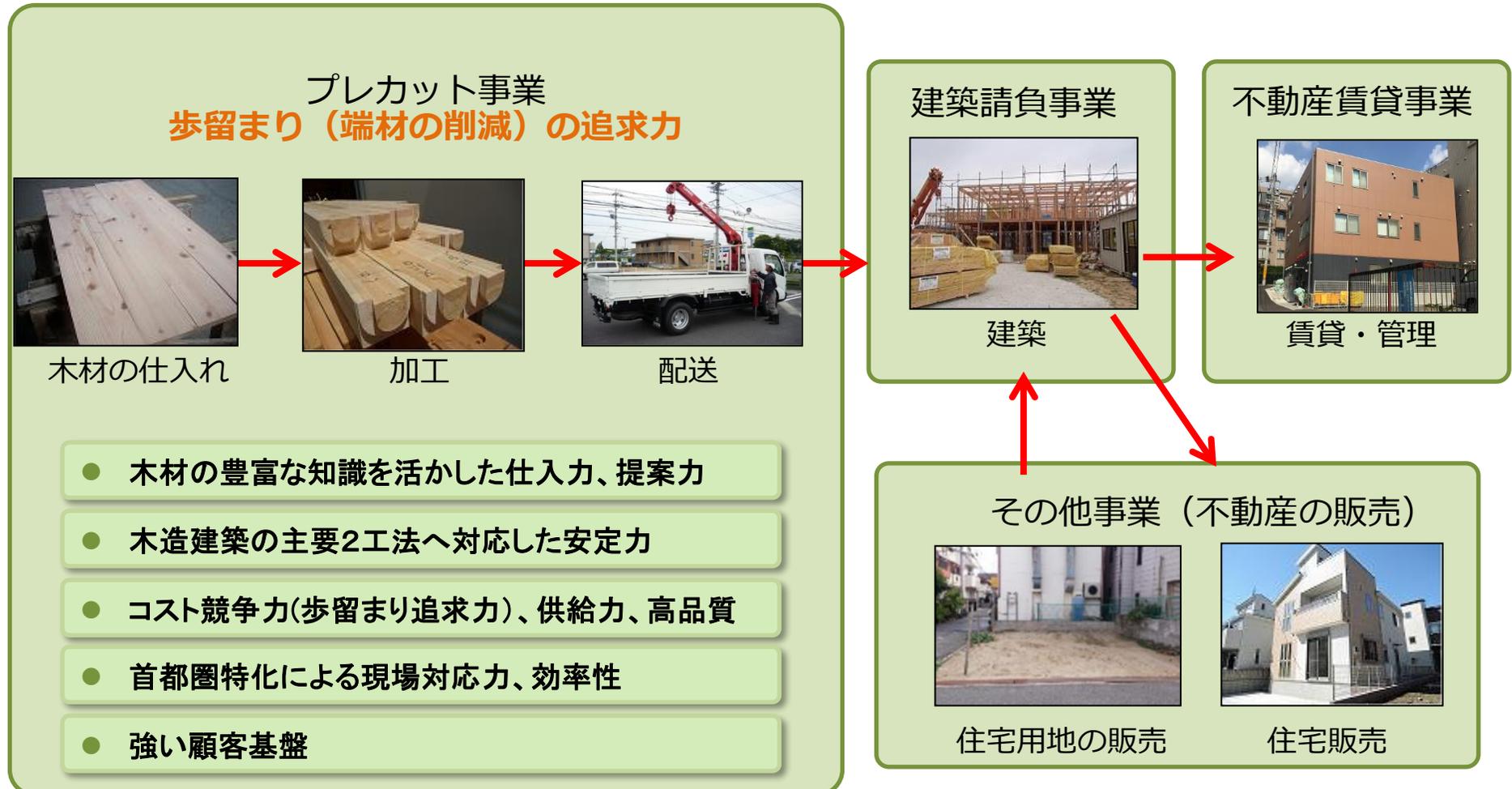


保育所 (台東区)

- ・ 構造：鉄骨造 4 階建
- ・ 土地：155.34㎡
- ・ 延床：387.44㎡
- ・ 定員数：60名
- ・ 契約期間：2018.10.1
~2034.3.31

付加価値を創造する木造建築のトータルサービス

- 材木店経営で培った木材（業界）に関する豊富な知識を活かし、木材の仕入れから加工、建築、賃貸・販売までグループ内で行うことで、付加価値を創造



ピッキングシステムと新式プレカット加工ラインの導入により、**高い歩留まり・生産性を実現**

ピッキングシステム (邸別ピッキング用自動倉庫)

更なる「歩留まり追求」を目的に導入

⇒ **歩留まりが約10%向上**

- ・コンピュータ制御による在庫管理技術の向上に伴い、必要な木材のより適切な仕入れが可能となり、**材料費を削減**
- ・材料の木材の入庫、出庫の自動化により、**生産性も向上**



新式プレカット加工ライン



- ・加工能力向上に加え、従来難しかった複雑な加工も可能になり機械化率が上昇し、**生産性も向上**
- ・製品の**品質安定化**にも貢献

全部位 (壁・床・屋根) のパネルを加工し、現場に配送

- ・ 建築現場における工数が大幅に削減される他、高度技術者も不要となり、**付加価値の高い製品**を提供



壁パネル



床パネル



屋根パネル

大量かつ安定供給が可能な東金工場

- ・ 広大な敷地 (68,434㎡) の東金工場に設備を集約し、パネルの**大量生産・保管、安定供給体制**を確保
- ・ 東金インターから約10分の好立地で、**効率化された自社配送**

機械化が進んだ生産ライン

- ・ 在来軸組工法で培ったノウハウを活かし、**機械化を推進**
複雑な形状の加工においても機械化を進め、高品質、高い生産性を確保



マルチカットライン
(木材のカット)



マルチカット製品



パネルシージングライン
(自動釘打ちマシン)

ベトナム子会社でのCAD設計

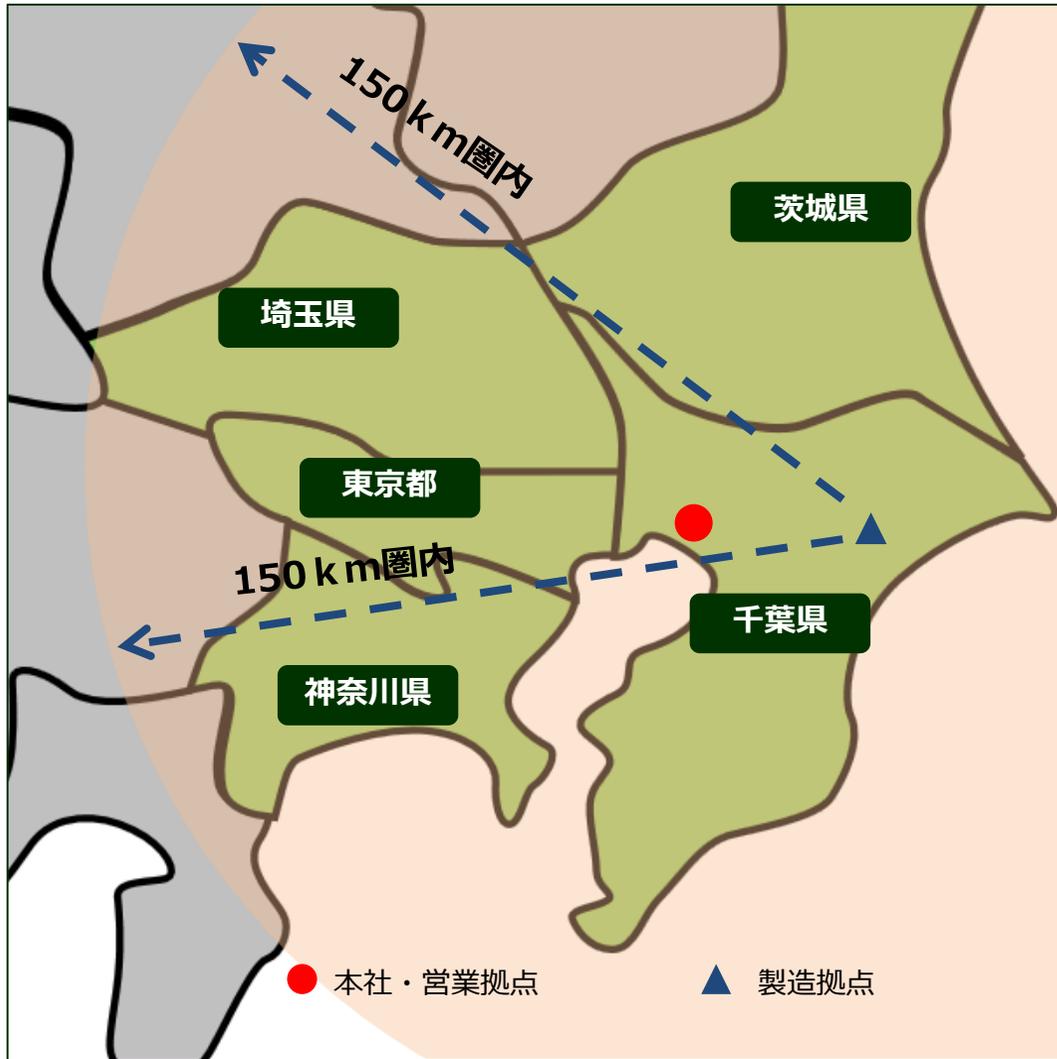
標準的な建物の設計を行い、**コスト低減**

- クロス (直切り) カットライン 2ライン
- マルチカットライン 2ライン
- パネルシージングライン 2ライン

当社の強み (4) プレカット事業 (首都圏に特化)

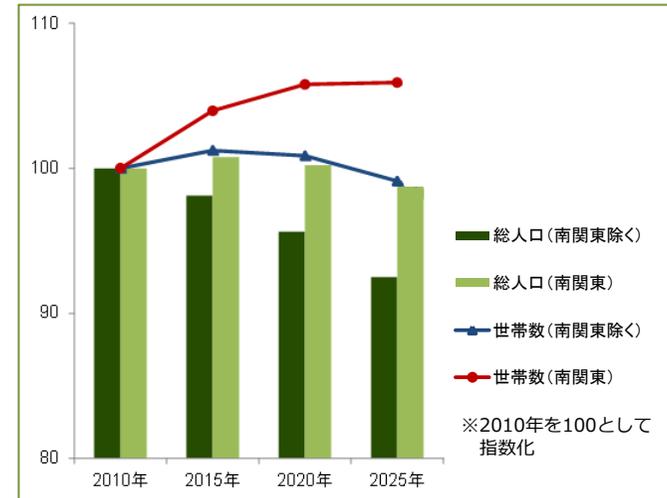


人口が集中する首都圏 (1都4県) に絞った生産・営業拠点



展開エリアを絞ることにより

- ・お客様のニーズへの迅速な対応 (企画・設計・アフターサービス)
 - ・営業効率
 - ・配送効率
- 生産性向上による
コスト競争力

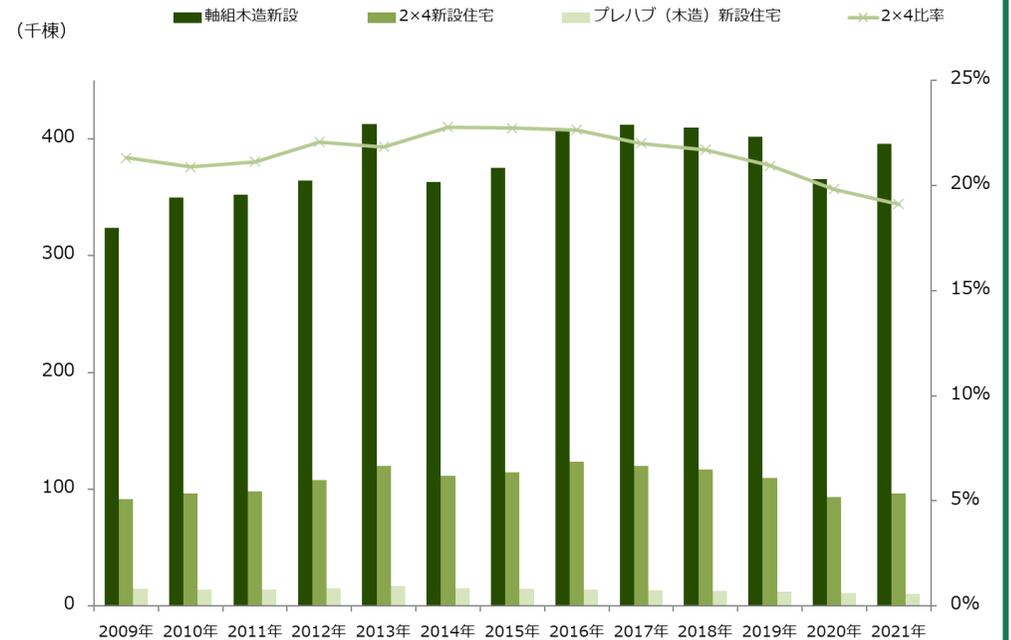


出所：国立社会保障・人口問題研究所「全国人口将来推計」より当社作成

新設住宅着工戸数に占める木造新設住宅着工戸数の割合



工法別木造新設住宅着工戸数とツーバイフォー比率

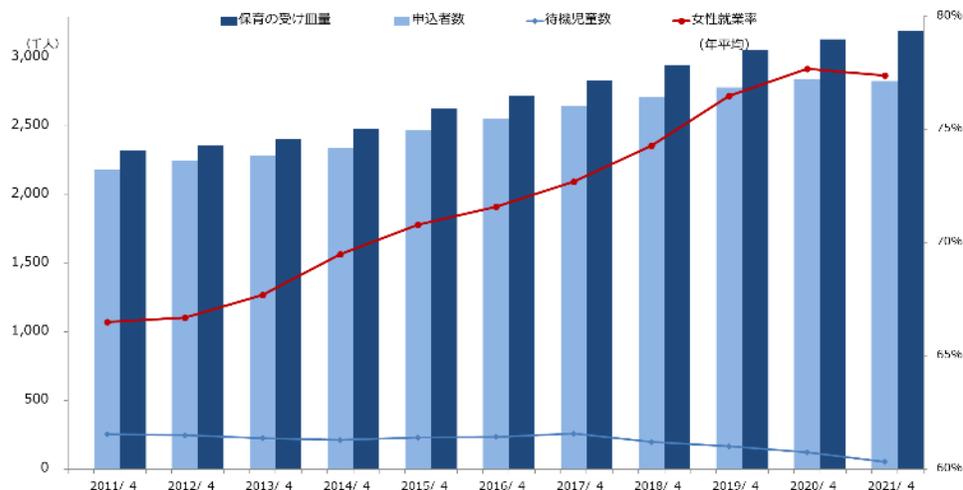


出所：国土交通省「建築着工統計調査住宅着工統計」より当社作成

待機児童数の状況

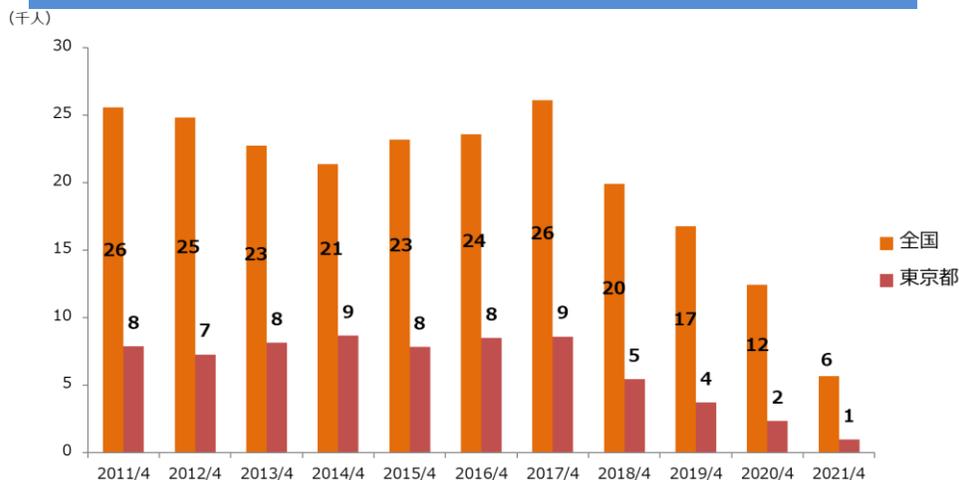


女性就業率、保育所受け皿量、待機児童数の推移



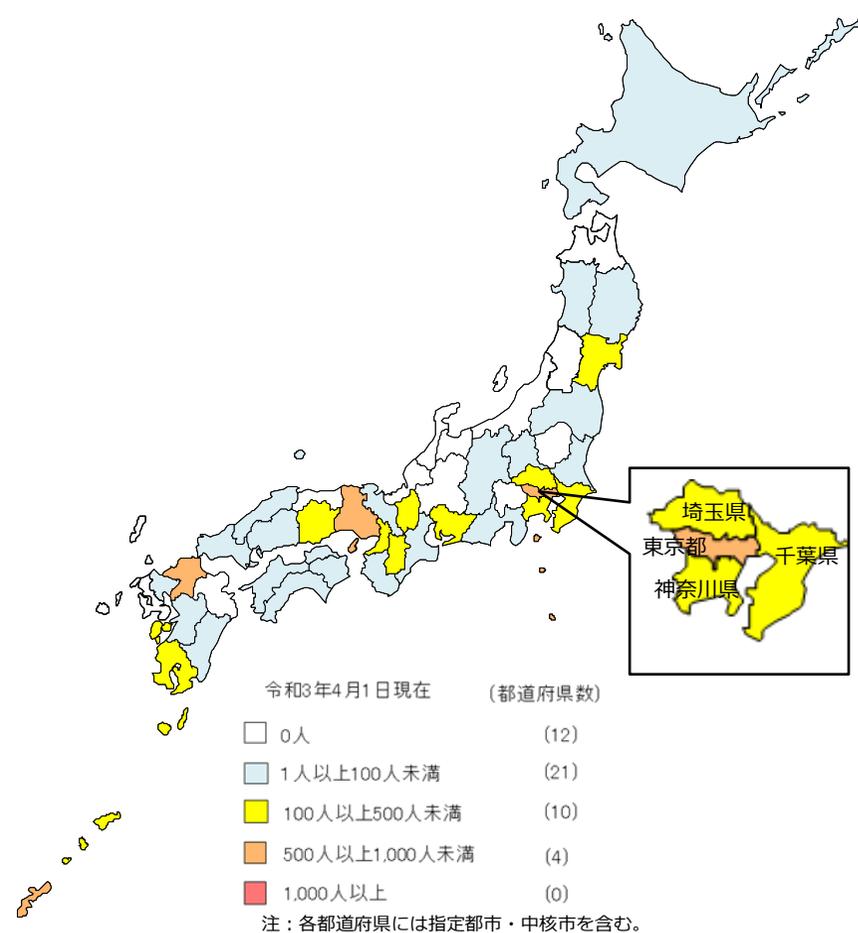
出所：厚生労働省「令和3年4月の待機児童数調査のポイント」より当社作成

全国待機児童数に占める東京都の割合



出所：厚生労働省資料「保育所等関連状況取りまとめ（令和3年4月1日）」
東京都資料「保育所等利用待機児童等の状況」より当社作成

地域別待機児童数の状況



出所：厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ」より当社作成

気候変動への対策－脱炭素社会の実現に向け、木材資源の有効活用を推進

わたしたち、シー・エス・ランバーグループは、社是である

Customer Satisfaction through Lumber

木材を通じて顧客に満足戴ける取引に徹する

の下、人権の尊重や地球環境への配慮、その他のサステナビリティを巡る課題へ対応することが重要な経営課題であると位置づけ、これらの課題に積極的に対応することにより、企業価値の向上を図り、持続的に成長してまいります。

特に、**2050年カーボンニュートラル**－脱炭素社会の実現に向けて、炭素を貯蔵する働きのある木材資源を有効活用するための様々な取り組みを推進し、地球環境の維持、特に地球温暖化防止に対して、積極的にその役割を果たしてまいります。

サステナビリティに関する活動の詳細は、

ESG報告書

環境に優しい持続可能な企業経営をめざして（2022年版）

をご参照ください

(URL: <https://www.c-s-lumber.co.jp/ir/esg.html>)



株式会社シー・エス・ランバー

【お問い合わせ先】

株式会社シー・エス・ランバー

経理部長 加賀美 淳

TEL 043-213-8810

FAX 043-213-8819

URL <https://www.c-s-lumber.co.jp>

<ご案内>

本資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関する情報は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。市場環境等の様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、ご利用者自身の判断において行われるようお願い申し上げます。

なお、いかなる目的であれ、本資料を当社の許可なく複写複製等を行わないようお願い申し上げます。